

シンナガサキミーティング開催レポート

i n 橘小学校区



令和6年5月22日（水）、自治会や地域コミュニティ連絡協議会、PTA、消防団、学童・保育園関係者など16人の皆さんにお集まりいただき、橘小学校区の「シンナガサキミーティング」を開催しました。

自己紹介では、それぞれの立場で行っている地域の安心安全のための活動や子どもの健全育成のための活動、地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいたご意見

①若い世代の住まいについて

若い世代にとって東長崎は住みやすいまちだと思うが、宅地が少なく、新築の家を建てられないので、古い家を借りてリフォームして住んでいる方も多い。行政からいろんな助成があれば、若い方がさらに東長崎に住むようになるのではないかと。

市の考え方

回答

若い皆さんに住んでいただけるようにすることは、市としても課題だと考えています。特に東長崎は、市の中心部や県央地域へのアクセスも良く、ロケーションも良く、ポテンシャルがあると感じています。

長崎市では、多子世帯又は新たに3世代で同居若しくは近居する方を対象に、中古住宅の取得及び改修工事費用を補助する「子育て住まいづくり支援費補助金」や、住宅のリフォーム費用を補助する「住宅リフォーム支援補助金」を実施しています。制度を活用していただくことで、安心して子どもを育てることができ環境の整備及び子育て家庭の経済的負担の軽減並びに中古住宅の流通につなげていきたいと考えています。



②地域の観光資源について

東長崎地区には普賢山などの色々な観光の資源がある。東長崎のいいところや隠れた資源を活用してほしい。

市の考え方

回答

東長崎地区には、まだまだ知られてない観光資源がいっぱいあると感じていますので、地域の皆さんと一緒にその資源を磨いていけるように取り組んでいきたいと考えています。

普賢山については、令和4年度に長崎市提案型協働事業として、山頂付近の視点場の樹木の剪定や整理、紹介マップやデジタルスタンプラリー、山頂付近のライトアップなどに地域の方々と市が一緒になって取り組み、資源の磨き上げを行ったところです。

今後も、東長崎地区の魅力をSNS（長崎市総合公式X、長崎市総合公式Facebook）で情報発信するなどして、地域の資源のPRや活用に努めていきます。

③第2子以降の子育て支援について

長崎市の子育て支援について、育児相談や育児学級など第1子に関してははすごく充実してると思う。だが、第2子以降はそういった機会がないので、保護者が孤立しない支援やイベント等があるといいのではないかな。

市の考え方

回答

第1子の生後2か月から1歳未満の子と保護者に対しては、公民館等において育児学級を実施し、保健師による育児相談や育児情報の提供、体重測定、また保育士によるお遊び、参加者同士の交流を行っています。

現在、出生数や会場の広さ等により第1子に限定して実施しているのが現状ですが、第2子以降も安心して産めるような環境づくりは重要ですので、第1子に限らず利用でき、保護者同士の交流の機会にもなる「お遊び教室」や「子育て支援センター」について、子育て家庭の皆様への周知に努めてまいります。

そのほか、「子育て世代の経済的・精神的負担を軽減してほしい」、「放課後児童クラブの現状と支援のあり方を考えてほしい」、「手続きの簡素化を進めると同時に、デジタルデバイド対策も行ってほしい」などのご意見をいただきました。



鈴木市長のひと言

少子高齢化の流れの中でいろいろご苦労されながらも、地域の皆さんがそれぞれの立場で頑張っていってくださる状況がよく分かりました。意見交換の中でいただいたアイデアやご意見を今後の市政に役立てていきたいと考えています。

また、東長崎地区の魅力、地域の資源を皆さんと一緒に磨いていけるよう頑張っていきたいと思います。



参加者からの感想

市長の話を直接お聞きする機会はないので、市民の声に耳を傾けて頂けることに感動しました。地区の方とも交流できて、良い時間となりました。

同じ地域の方々のお話や市長のお話を対面で聞くことができ、自分がふだん気づかない問題を知ることができて、ためになりました。

市長さんとの直接対話、親近感もありとても良かった。

地域でどのような困りごとや、問題があるのか知ることが、皆さんで出来てよかったと思います。

